

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農林水産総務課長 西村秀樹	電話番号	0852-22-5107
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	農林水産試験研究推進事業		
目的	(1) 対象	県民（農林漁業者・農林漁業団体・消費者）	
	(2) 意図	消費者ニーズや、農林漁業者等の課題に直結した農林水産試験研究を推進し、持続的に発展する島根県の農林水産業・農山漁村の実現を目指す。	
事業概要	消費者視点に立ち、現地（実需者）と直結した農林水産試験研究の課題設定及び評価を行う、農林水産技術会議の運営実施。生産者の市場競争性を高めるため、研究によって得られた新技術や新品種の知財化の推進。新たな試験研究需要への対応や多様化する要請に応えるための、研究施設整備、また緊急的課題への迅速な対応を可能とする体制整備。自然環境の変化や食に対する価値観、消費行政の変化に対応した、将来の農林水産業を支え、農産漁村の存在価値の向上に貢献する先導的な技術開発の実施。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 終了した試験研究課題総数のうち、その成果が「普及可能」または「目標達成」と評価された課題の割合	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
		取組目標値						
1	式・定義 その成果が「普及可能」または「目標達成」と評価された課題数/終了した試験研究課題総数	実績値	95.2	85.7				%
		達成率	-	85.7	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
2	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	106,632	71,163
うち一般財源 (千円)	95,237	71,163

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<p>【平成28年度に終了した試験研究課題】 28年度終了課題14課題のうち、「普及可能」8課題、「目標達成」4課題、「普及検討」2課題であった。「普及検討」とされた2課題については、有用な知見が得られたが、部分的に課題を残したため、引き続き国事業等で対応する。</p> <p>【知的財産権】 特許権24件（うち登録済13件、出願中11件）、ライセンス契約10件 商標権6件（うち登録済6件）</p>
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<p>28年度終了課題は14課題で、うち12課題が「普及可能」あるいは「目標達成」と評価され、他2課題については、得られた成果を現場へ積極的に発信しながら、別事業等でフォローアップする等、現場へ技術移転しやすい形での研究実施が図られた。</p> <p>継続する61課題については引き続き良好な成果が得られるよう、進捗管理を実施するとともに、多様化する研究ニーズに対応できるよう老朽化した設備の更新を図る等、取組を行っている。</p> <p>研究成果については、特許出願や商標登録出願等を行い、ライセンス契約による現場での活用が図られている。</p>
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」 めまぐるしく変化する農林水産業の情勢、ニーズの多様化によって、普及現場などから求められる課題が増えている状況。</p>
<p>②困っている状況が発生している「原因」 研究資源（予算、人員、施設）が限られている中で、最大限、資源を効率的に配分しているが、すべての要望に対応できていない。</p>
<p>③原因を解消するための「課題」 行政課題に照らして優先的に解決すべき研究課題の絞り込み、研究開始から研究成果が現場移転されるまでの研究機関・行政機関それぞれの役割の明確化など、限られた研究資源を有効に活用し、最大限の効果が得られるようなくみづくりが必要。</p>

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<p>行政課題を所管する事業課と試験研究機関が十分に協議を行い、施策と研究の連動性（開発する新技術の活用、普及までを見据えたロードマップ）を整理した上で、取組みの優先度が高い課題について、研究資源を優先的に配分していく。</p>
--